

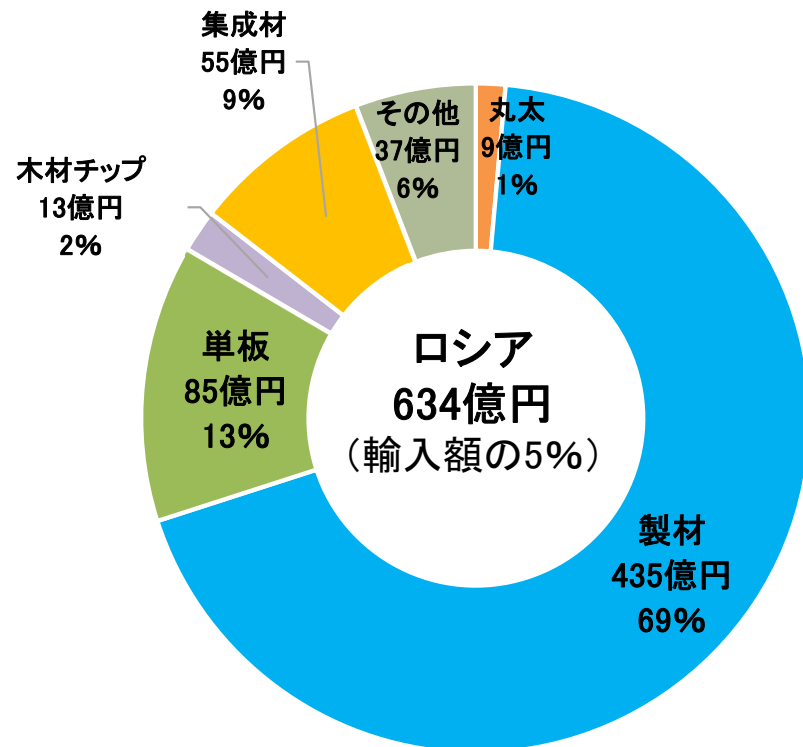
資料 2

ロシアからの木材輸入動向などについて

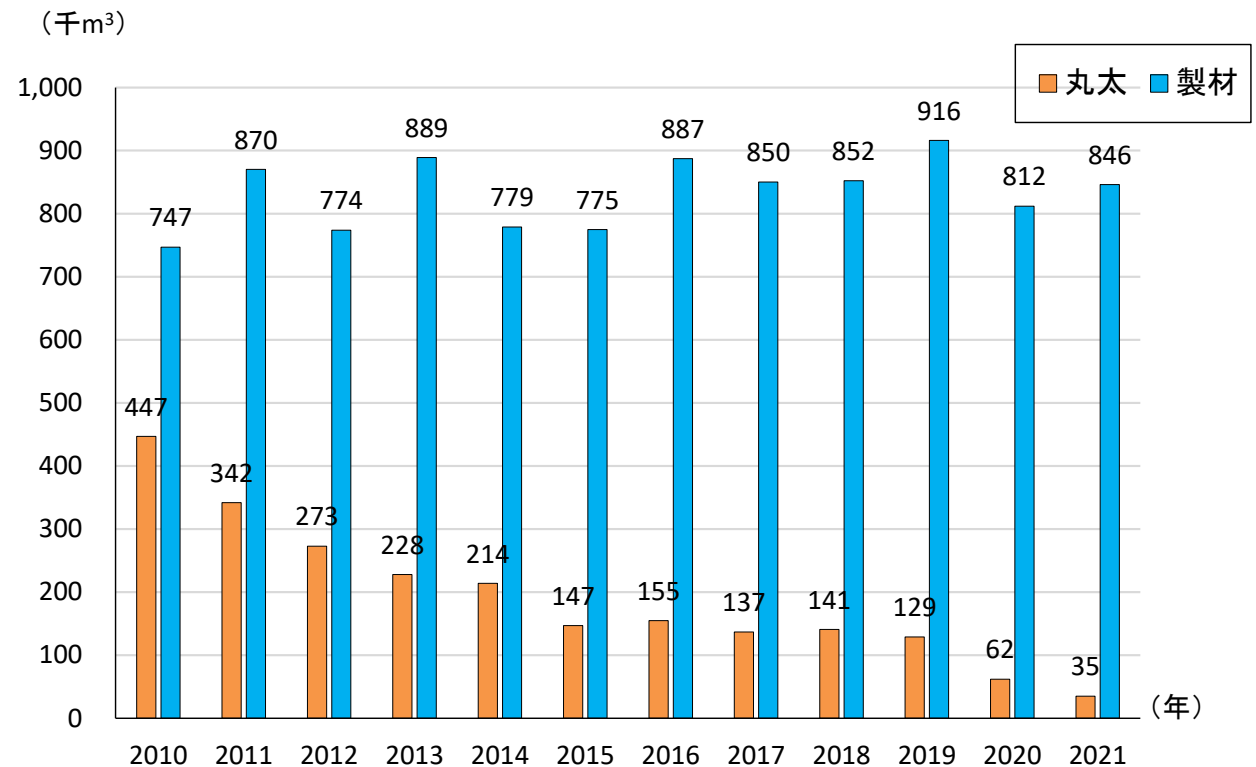
林野庁 木材利用課 木材貿易対策室

ロシアからの木材輸入動向

- ロシアの丸太生産量は2.0億m³、製材生産量は4,180万m³(2020年)。
- ロシアからの木材輸入額のうち、製材が約7割、丸太が1%。国内加工業育成のための丸太輸出税導入により、丸太輸入量が大幅に減少する一方で、製材輸入量は概ね横ばい。
- ロシアからの製材輸入量(85万m³)は、我が国の製材輸入量全体の18%を占める。ロシア産の製材は、主に、タルキや下地材等の羽柄材に使用。
- 2022年1月から、未加工の丸太と粗く加工された木材の輸出を禁止。また、10cm×10cmを超える未乾燥の製材に高率(200ユーロ/m³)の輸出税を賦課。



ロシアからの輸入額(2021年)

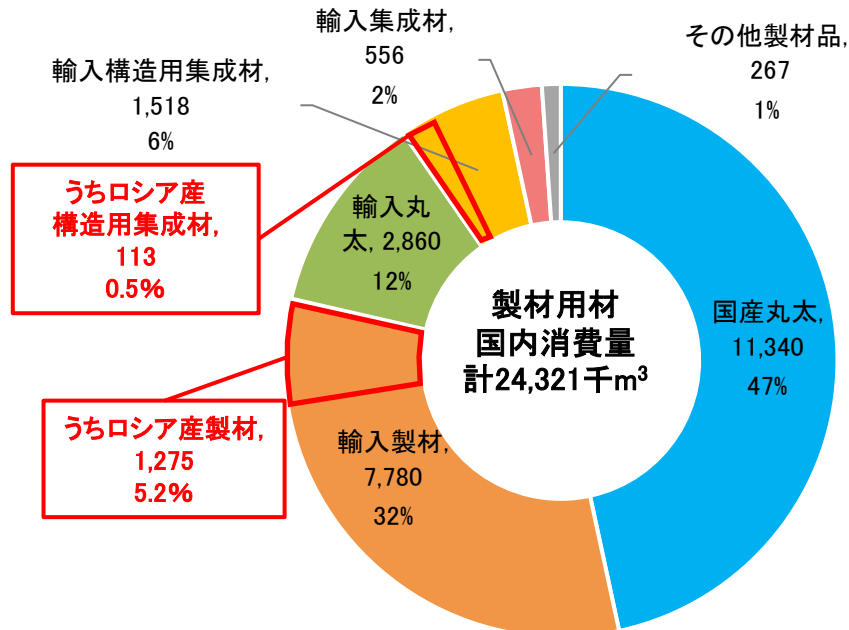


ロシアからの輸入量の推移(丸太、製材)

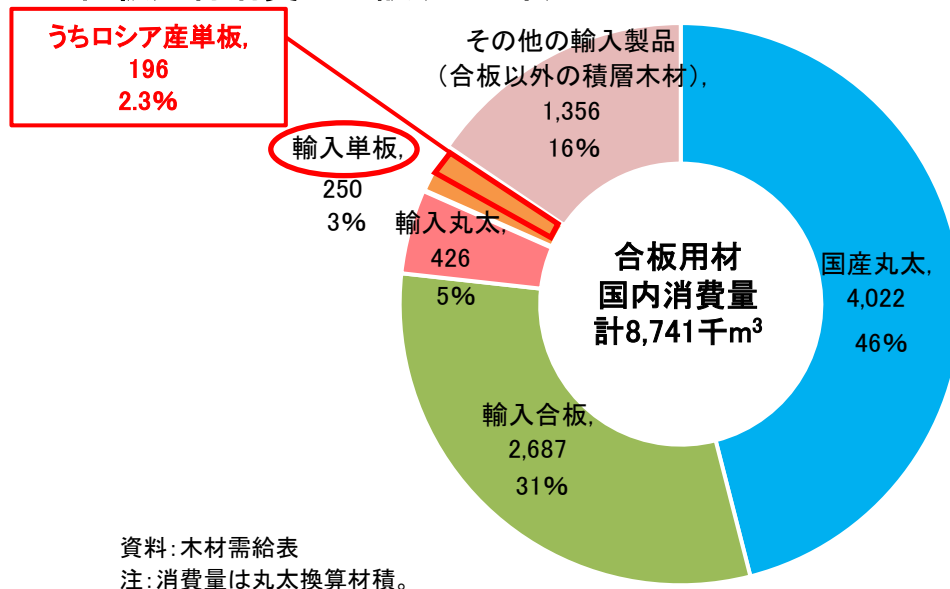
ロシアからの木材輸入

- 2021年におけるロシアからの木材輸入額は634億円（※我が国の木材輸入総額（約1.2兆円）の5％）。ロシアからの木材輸入額のうち、69％（435億円）が製材、13％（85億円）が単板、8％が構造用集成材（48億円）。
- ロシア産の製材と構造用集成材は、国内における製材用材消費量の5.7％を占める。
- ロシア産の単板は、国内における合板用材消費量の2.3％を占める。
- ロシアによる輸出禁止等の影響により、今後、ロシア材の供給がひっ迫する可能性。

■ 国内の製材用材消費量内訳(2020年)



■ 国内の合板用材消費量内訳(2020年)



資料: 木材需給表
注: 消費量は丸太換算材積。

- ロシアは、2022年3月9日から、我が国を含む「非友好国」に対して、木材チップ、丸太、単板の輸出を禁止。
- ロシアへの最恵国待遇撤回により、製材の関税率は、一部を除き4.8％から8％等に引き上げ（※製材の一部、単板、構造用集成材は、関税率に変化なし）。
- 我が国は、木材チップ、丸太、単板の輸入禁止について、2022年4月12日に閣議了解し、輸入貿易管理令に基づく経済産業大臣告示を改正（4月12日公布、4月19日施行）。

世界における木材貿易の流れ

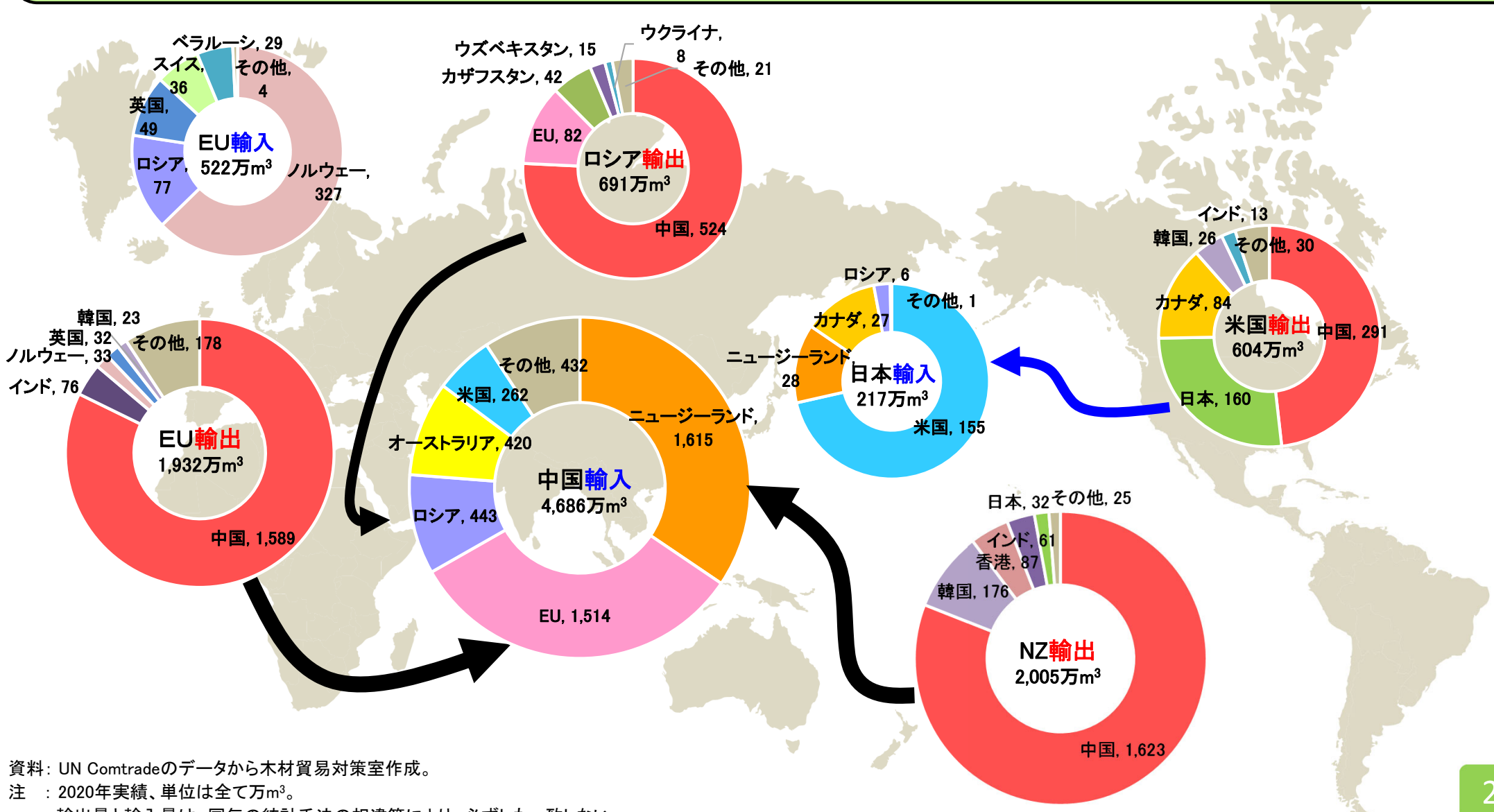
－針葉樹丸太、針葉樹製材、合板－

令和4年2月

林野庁木材貿易対策室

1. 世界における針葉樹丸太の貿易

- 2020年における世界の針葉樹丸太輸出量は約9,800万m³。NZ(20%)、EU(20%)、ロシア(7%)、米国(6%)で全体の53%を占める。
- 同年における世界の針葉樹丸太輸入量は約1.03億m³。中国(45%)、EU(5%)で全体の50%を占める。
- 主な流れは、NZ→中国(1,600万m³程度)、EU→中国(1,500万m³程度)、ロシア→中国(500万m³)など。
- 日本の針葉樹丸太輸入量は217万m³で、世界の2%を占める。米国からの輸入が71%。



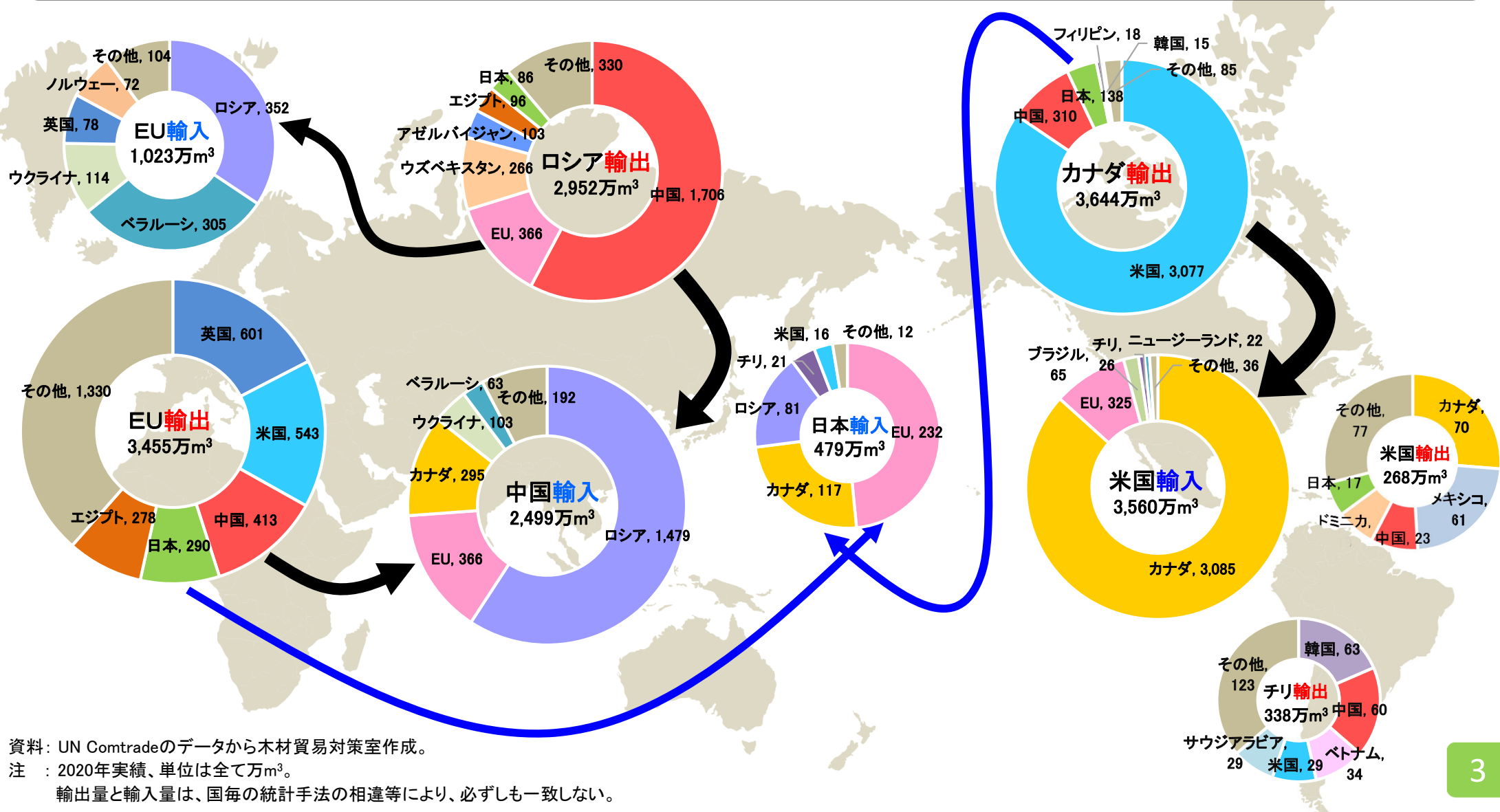
資料：UN Comtradeのデータから木材貿易対策室作成。

注：2020年実績、単位は全て万m³。

輸出量と輸入量は、国毎の統計手法の相違等により、必ずしも一致しない。

2. 世界における針葉樹製材の貿易

- 2020年における世界の針葉樹製材輸出量は約1.43億万m³。カナダ(25%)、EU(24%)、ロシア(21%)で全体の70%を占める。
- 同年における世界の針葉樹製材輸入量は約1.21億m³。米国(29%)、中国(21%)、EU(8%)で全体の58%を占める。
- 主な流れは、カナダ→米国(3,000万m³程度)、ロシア→中国(1,700万m³程度)、ロシア→EU(360万m³程度)、EU→中国(400万m³程度)など。
- 日本の輸入量は479万m³で、世界の4%を占める。EUからの輸入が48%、カナダが24%。



3. 世界における合板の貿易

- 2020年における世界の合板輸出量は約2,600万m³。中国(35%)、ロシア(11%)、ブラジル(10%)、インドネシア(9%)で全体の約65%を占める。
- 同年における世界の合板輸入量は約3,200万m³。米国(19%)、EU(17%)、韓国(12%)で全体の約48%を占める。
- 主な流れは、ロシア→EU(150万m³程度)、ブラジル→米国(110万m³程度)など。
- 日本の輸入量は137万m³で、世界の4%を占める。インドネシアからの輸入が45%、マレーシアが42%。

